

琉球大学学術リポジトリ

[COE研究員の研究紹介] 琉球諸島周辺の異尾甲殻類に関する分類学的研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム広報委員会 公開日: 2007-07-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大澤, 正幸, Osawa, Masayuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1131

琉球諸島周辺の異尾甲殻類に関する分類学的研究

大澤正幸（種の多様性研究グループ COE 研究員）

私は、サンゴ礁島嶼域の十脚甲殻類の分類および生物相、特にエビとカニの中間的な形態を持っている異尾類について研究をおこなっています。異尾類の代表的なものは貝殻を背負っているヤドカリ類ですが、カニ型をしたカニダマシ、コシオリエビ類も含まれます。異尾類の種分類は、同じ十脚甲殻類のエビ、カニ類に比べ研究が遅れています。従って、海岸で普通に見られる種類のなかにも未記載種が含まれている可能性があることが一連の研究をとおして分かってきています。

昨年度は、琉球諸島沿岸の浅海域から採集されたヤドカリ類について、分類学研究をおこないました。これまでに採集された標本には、少なくとも8つのホンヤドカリ科の未記載種が含まれていることが分かっています。サンゴ礁域に生息しているホンヤドカリ科の多くの種は、非常に小型で死サンゴの隙間などに隠れ住んでいることから見逃しやすく、生息している種数は非常に少ないと近年まで考えられてきました。今後の継続した調査、研究によって、生物相の正確かつ詳細な把握が期待できると思います。

本年度は、これまでにほとんど研究がなされていない琉球諸島周辺海域の深海性（大陸棚より外側の海域）の十脚甲殻類についても、分類学的研究を進めてゆく予定です。国立科学博物館と広島大学は、これまで数年にわたって琉球諸島周辺海域で調査研究航海をおこなってきました。私は調査航海に参加する機会を得て、数多くの十脚甲殻類を収集してきました。今後、これらの標本に基づき、ヤドカリ、コシオリエビ類について詳細な分類学的検討をおこなうとともに、琉球諸島周辺の正確な深海性異尾類相の把握を進めてゆきたいと思います。また、フィリピン、台湾周辺海域で進められている深海調査をとおして採集された標本についても検討する予定です。これらの材料を含め、これまでにインド - 西太平洋域でなさ

れている研究と比較することにより、琉球諸島周辺の深海性異尾類相の特徴を明らかにしてゆきたいと考えています。



ヒメヤドカリ属の1種 *Catapaguroides iejimensis* Osawa and Takeda, 2004



エビスヤドカリ属の1種 *Catapagurus* sp.

これらのヤドカリは、海底洞窟内の暗い環境に棲んでいます。